

【授業の到達目標および概要】

授業のテーマ及び到達目標：テーマ：科学的根拠にもとづく地域保健活動

到達目標：わが国の地域保健の仕組みを理解するとともに、地域疫学研究のABCや科学的根拠にもとづく地域保健活動について学び、何らかの形で自身の修士研究に役立てる。

授業の概要：まず、健康寿命について正しく理解する。次に、健康長寿に向けた指針ともいえるべき「健康長寿新ガイドライン」（東京都健康長寿医療センター編）の策定経緯と概要について理解する。さらに、新ガイドラインの根拠となった疫学研究（観察型、介入型）の概要を理解し、疫学研究のABCを学ぶ。最後に、健康長寿をめざした地域保健活動の事例と成果を学ぶ。以上を通じて科学的根拠にもとづいた地域保健活動を学ぶ。

【授業計画】

- ① 健康寿命について正しく理解する（余命と寿命、健康余命と障害期間、世界の中における日本の位置、ライフステージにおける関連要因、World Report on Ageing and Health（WHO、2015）など）
- ② わが国の地域保健の歴史と現行のシステムを理解する
- ③ 健康長寿新ガイドラインが策定された経緯や根拠となった研究の概要を理解する
- ④ 健康長寿新ガイドラインのポイント（1）生活機能とは
- ⑤ “ ” （2）生活習慣病予防と生活機能低下予防の違い
- ⑥ “ ” （3）フレイル予防のポイント（藤原佳典）
- ⑦ “ ” （4）地域環境、人のつながりの大切さ（藤原佳典）
- ⑧ 地域保健活動の事例紹介（1）群馬県草津町
- ⑨ “ ” （2）埼玉県鳩山町
- ⑩ “ ” （3）兵庫県養父市
- ⑪ “ ” （4）東京都大田区
- ⑫ 横断的データの分析と発表
- ⑬ 縦断的データの分析と発表
- ⑭ 総括

【授業外学習】

1. 教科書や参考書の事前学習、2. 関連する論文及び資料の事前購読、3. 個人情報や削除したデータ（横断的、縦断的）の解析（データは事前配布）

授業時間の倍の自学自習（予習・復習等）を行うこと。

予習では、前もって配布する講義資料や関連論文を中心に学習し発表に備えること。

【成績評価の方法・基準】

自学自習を含めた学習態度（50%）及び授業内発表（⑫、⑬、50%）により評価する。

【教科書】

東京都健康長寿医療センター編「健康長寿新ガイドライン エビデンスブック」（社会保険出版社、2017年）

【参考書】

国民衛生の動向 2022/2023（厚生労働統計協会、2022年）

Summary：World Report on Ageing and Health（WHO、2015）

【教材】

教科書は初回授業で無料配布する。また、随時、資料や参考論文等を配布する。

【備考】

欠席等の場合は事前に連絡すること。また、欠席の場合は、当日配布する資料や参考論文についての課題学習・レポート提出を求めることがある。